
LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポートvol.1

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは4月10日(土)、2021年度第1回のプログラムを開催いたしました。おかげさまで、8年目となる大隈塾LCをスタートすることができました。ありがとうございました。

今期の受講生数は25名(過去最多)、このうち女性が7名、熊本・福岡・長崎と地方から参加されている方もいらっしや、多様性に富んだメンバー構成となったことをうれしく思います。

コロナ禍という状況を鑑み、プログラムではZoomでのオンライン講義・ワークショップを主として実施いたします。また課外活動についても「日帰り・密を避けての移動・屋外活動・活動中のソーシャルディスタンス」を意識して設計しています。感染状況を踏まえながら、柔軟に対応していきます。

初回は塾頭の駒井正義が自身の会社員生活を振り返りながら「会社の中でどう楽しく、面白く生きるか1」をテーマに講義を行いました。

◆タイムテーブル

09:00～11:00 講師：駒井正義（大隈塾塾頭、三井物産前副社長）
テーマ：「会社の中でどう楽しく、面白く生きるか1」

11:00～11:10 休憩

11:10～12:00 グループワーク：自己紹介を兼ねたゲーム
オリエンテーション
クロージング

◆第1講

講師：駒井正義（大隈塾塾頭、三井物産前副社長）
テーマ：「会社の中でどう楽しく、面白く生きるか1」



【『大隈塾LC』で取り組んでほしいこと】

・新型コロナウイルス流行後の世界で起きている変化（政治の制度、経済の仕組み、地球環境、働き方）に対応できるよう、受講生同士意見交換し、1年間かけて自分が進むべき方向やありたい姿を見つけてほしい

【塾頭の講義を通して学んでほしいこと】

- ・組織、社会の中でどうやったら面白おかしく生き生きと生きていけるのか
- ・良いリーダー像、リーダーシップ
- ・30～40代における正しい勉強と努力の方法
- ・組織の怖さと対処法
- ・人間にとって幸せとは何なのか、豊かさとは何なのか
- ・偉くなるべきなのか、偉くなるべきなのであればどうやったらなれるのか

【組織、社会の中で面白おかしく生き生きと生きていくための4つの条件】

・学生時代「アウトサイダー」（コリン・ウィルソン著）という本に影響を受けた。社会において実現することが際立って困難だと思われる課題を自分自身で設定して、それに対して挑戦を続け、自己変革を起こすことで、生き生きと生きていける。三井物産に入社した時も、“三井物産の誰よりも面白おかしく生きてやる”と信念を持っていた。

・面白おかしく生き生きと生きるためには「心身ともに健康であること」「言いたいことを言ってやりたいことをやる」「周囲から承認されていること(部下から尊敬され、上司や同僚から認められていること)」「自分のやっていることが自己実現につながっている」の4つが必要

【有言実行、大言壮語でモチベーションを維持】

・新人時代を管理部門で過ごした後、国内の鉄鋼本部に配属された。3年刻みで異動するのが一般的ななか、異例の9年半、鉄鋼本部で働くことになった。なぜなら死ぬほど仕事ができただから。

・商売をしようと思ったら、何をしたらいいか。取引先を先に儲けさせて、結果として自分が儲かるような仕組みを作ったらい。取引先が一番期待して評価するのは情報。役に立つ情報、価値のある情報を相手に対して与えていく。そして、見返りとしての情報を引っ張り出す。これを実現するために、勉強した(鉄のコスト構造や原価、鉄の流通の歴史やあり方、マーケティングなど)。社会人の正しい勉強と努力の方法とはこういうこと。

・価値のある情報が多く集まる仕組みを作ったことで、36歳で価値あるM&Aを成功に導き「国内鉄鋼のプリンス」というあだ名までつくようになった。

・このような努力を積み重ねるため、モチベーションを維持するために大切にしていたのが「有言実行」と「大言壮語」。実現しそうな夢を語り、”言ってしまったからにはやらざるを得ない”と退路を断つことで、問題に正面から立ち向かうことができた。

【37歳で貿易部門へ、結果を出せば言いたいことを言ってやりたいことができる】

・貿易部門出身の部長から声を掛けられたことがきっかけで、英語を学び、貿易部門へ転出することになった。英語も貿易実務も初心者でありながら、結果を出し続けて39歳でジャカルタに赴任。面白おかしく過ごすことができたのは、赴任地でも結果を出し続けたことで、言いたいことを言ってやりたいことをやれる環境が出来ていたから。

・赴任先での活躍から、バンコクでの社長赴任を打診されるも、断ったことで2年間、出世が遅れることになる。これが組織の怖いところ(ただし5年後、本店に戻った後に出した功績により、4年かかる部長代理から次長までの出世を飛び級の3年で果たし、2年間の出世の遅れを取り戻した)

【まとめ】

・偉くなろうと思って偉くなったわけではなく、面白おかしくやってきた結果として偉くなった。これが実現できるということは、会社員にとって大きな希望だと思う

・組織の中で面白おかしく、生き生きと生きてほしい

- ・ 30～40代は意味のある正しい勉強、正しい努力をしよう
- ・ 「有言実行」「大言壮語」の精神で臨めば、モチベーションを維持し続けることができる

◆グループワーク”Waになって語ろう”

講義のあとは、自己紹介を兼ねたグループワークを実施。4つのグループに分かれ、質問が書かれたカードを引いて答え合うゲームを行い、受講生間の親睦を深めました。

◆大隈塾LCでの学びの在り方、目指す姿について

最後に、事務局長・村田信之から、大隈塾LCでの学びの在り方や目指す姿について、共有がありました。

- ・ コロナ禍において”制約が多いから出来ない”ではなく”制約の中でどうやって実現するのか”を考え、知恵を絞り切ってやりきる、それがリーダーシップ
- ・ リーダーシップは生まれながらのものではなく、後から誰でも学ぶことができるもの。目標設定と共有、率先垂範、相互支援が重要になってくる
- ・ 1人のリーダーが仲間を引っ張るのではなく、組織の中に複数のリーダーがいてそれぞれがリーダーシップをとれるようになることが、今の時代には求められている（シェアードリーダーシップ）
- ・ サイエンスが結果を出せない時代、アートが注目され、ビジネスユースが進んでいる。アートとサイエンスを足したものがリベラルアーツ、これをどうやって身に付けていくかについては、次回以降解説する

◆オンライン懇親会

講義終了後は、塾頭・駒井正義も交えた懇親会をZoom上で開催。受講生の所属する飲料メーカーのお酒も持ちより、大いに盛り上がりました。



◆受講生のレポートより

非常に刺激的な時間でした。人間力の高さを画面越しでも感じられ、会話力の重要性を痛感しました。営業部門の傾聴力についてはよく社内でも取り上げられることがありますが、部門として求められている提案力を実現するためには、自分が与えた以上の情報を自身で取得していく姿勢・体制・人柄も重要だと理解しました。これからの講義を通じて自身の成長につなげていくのはもちろんですが、自身で正しい努力・勉強の行動へも、うつしていきたいと思えます。

120分という時間ですが、引き込まれてしまい、あっという間でした。やはり、実体験のお話を頂いているので、非常に面白く、わかりやすかったです。4年目から鉄鋼国内本部に配属されてから、「死ぬほど仕事ができる」という背景には専門知識、行動心理学、経済全般など勉強され、商談時は取引先に価値のある情報を提供し自分自身もその相手からそれ以上に重要な情報を引き出すという、努力と会話力を武器にしていらっしゃったところが参考になりました。やはり、しっかりと勉強や会話力の勉強を怠ることなく努力することが重要だと感じました。また、「大言壮語」⇒「有言実行」は真似したくてもなかなか真似できないことだと感じましたが、これは大きな目標をしっかりと立てて、それを実行に移すということです。私もぜひ実践していきたいと感じました。

ご自身の経験、人生をイキイキと話されており、「心の健康さ」がそれをもたらしているのだと感じた。2時間の講話中、一度も水を口に含むことがなかったので、それだけイキイ

キ、楽しく会社人生を過ごされ、それだけ熱中して仕事に励んでいらっしやっていた様子がうかがえた。社会人にとっての正しい努力、体系的な勉強の意味としては、社会の仕組み・ルールを理解した上で、自身の戦う場、評価の場での「原理原則」や「人」を把握し、自身の創意工夫、オリジナルを気づき上げ、ご自身を商品として売っていたことを感じた。駒井さんからは「人の三井」を強く感じた。また、尊敬される人、憧れの存在になることが、周りに対する影響だけでなく、自分自身を成長させることにも繋がると感じた。自分自身、今、その様な人・存在を欲している。壮大な夢を語り、それに向かって情熱的に働いている背中を見せられる人間。上位職になると、それがコミットになるため、夢を語ることに憚られる様な気がするが、夢を語れ、それに向かってがむしゃらに努力する人間になりたい。

自己実現と言いながら何を学ばば良いのか、周りの方々の意見に左右されがちだったので、自らが考えて意味のある結果が出ることを学ぶべきであると明確になりましたので、これから自身が学ぶべきこと、学びたいこと、既に学べていることを熟考するきっかけとなりました。

また、駒井さんから強い意志と情熱を感じ、勇気を頂きました。

駒井さんの成し遂げた結果には、仕事や人生に対する考えと実現のためのプロセスが確立されていたという点に感銘を受けました。翻って自分において考えてみると、仕事の目的は曖昧、それによってプロセスやすべき努力の方向性も定まってないと、落ち込みながらも、改めて課題意識を持つことができました。この一年で今後の仕事の大きな目的を定められればと思っております。恥ずかしながらアウトサイダーを読んだことがなかったので、早速購入し読み始めました。

私はどんな仕事でもやりがいや面白さ、学びがあると思って仕事と向き合ってきました。しかしながら、駒井さんのおっしゃる「面白おかしく、イキイキと」は次元の違うお話でした。面白おかしく生きるためには、大きな夢を掲げ、自分自身の全身全霊、人間性を注ぎ込みながら、挑戦し続けることでこそ、近づける領域なのだと気づくことができました。これまで、メンバーがイキイキとし、幸せを感じられる職場を目指してきましたが、正直なところメンバーに負荷をかけ過ぎることに後ろめたさを感じる自分がおりました。でも、夢とともにある困難さはクリアする過程もイキイキとするのだという気づきをいただき、自分の甘えを猛省いたしました。まずはメンバーに任せ、自分はより大きな夢を語り、挑戦し続ける姿を見せたいと思いました。

激動の時代を駆け抜けた駒井正義塾頭の貴重でユーモラスな講義を聞かせていただき本当にありがとうございました。このコロナ禍において、人生において何を大事にしなくてはならないのか？幸せとはなにか？残りの人生をどう生きるべきかと、悶々と考える時間が増えていたのですが、駒井塾頭の講義を受け、道標をいただいた感じがして少し気持ちが晴れやかになりました。「どうやったら面白おかしくやれるのか？」の講義も、意味ある体系的な学びと意識的に自分を追い込みながらチャレンジ精神を忘れず業務を実施していく事が、いかに重要であり、そこに面白おかしく生きるヒントがある事を学ばせていただきました。自分自身を振り返った時に、大言壮語的な事を一切できておらず、性分すぐに失敗の可能性を考えてしまい、チャレンジする事も自分の中にしまっていた事が、ある意味それが逃げ道にな

っていたとおおいに反省をさせられました。今回駒井塾頭に教えられた事は明日からでも実行できる事なので、意識は勿論、行動を少しずつでも変えれたらと思います。

=====

ご自身のご経験に基づいた、成功する為のアクションについて具体性とユーモアを交えながらお話頂けたことで、私自身刺激を受けると共に今後どのようなことを念頭に置いて生きていくべきか大きなヒントを頂けた。駒井塾頭ご自身の強いエネルギーを講義を通じて実感することが出来、2時間があっという間であった。会社生活を面白おかしく生きるためのノウハウやマインドを非常に明快にお話頂き、また、正しい努力を継続することが自らを高めることに繋がるというイメージを湧かせることが出来た。今後の講義に参加できることに非常にワクワクしている。

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.1

2021年4月22日発行（通算72号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

古屋茉紀 yokukikumakiron@gmail.com

〒026-0002 岩手県釜石市大平町3-9-1

TEL:050-3558-7527

MAIL:ookuma_school@stonesoup.tokyo